

人のぬくもりとふれあいが奏でる躍動のまち 丹波高原文化の郷 京丹波

京丹波

No.21

2007年
7月15日発行

水にのって、
風にのって、
前へ

特集

京丹波の

川

River in kyotamba



特集

京丹波の川

River in kyotamba



今月の表紙

学校でのクラブ活動を終えた中学生たちが向かう先は由良川のカヌー艇庫。あたりが夕暮れに染まるころ、和知ジュニアカヌークラブの練習が始まります。夕日を受けてきらめく川面には、カヌーに情熱を注ぐ部員たちの汗が光っています。(由良川、カヌー艇庫付近・坂原)

京丹波 No.21 CONTENTS

2 特集 京丹波の川 River in kyotamba

- 10 シリーズ・地域自治のススメ⑧
- 12 姉妹都市の留学生6人がホームステイ 友情ときずなを育んだ1カ月
- 14 簡易水道整備工事にかかる 不祥事のおわび

15 フラッシュ TOWN NEWS 2007

勇壮な響きに酔いしれる
DONと来い丹波八坂公演
演劇「夕鶴」に児童も出演
丹波ひかり子ども会交流協
地元運営で新しい交流始まる
丹波黒豆学校が開校
地球にやさしい職場づくりへ
地球温暖化対策実行計画を策定

- 16 9年ぶりにつかんだ全国への切符 須知高女子ホッケー部 インターハイ出場

由良川福井河原付近、本庄

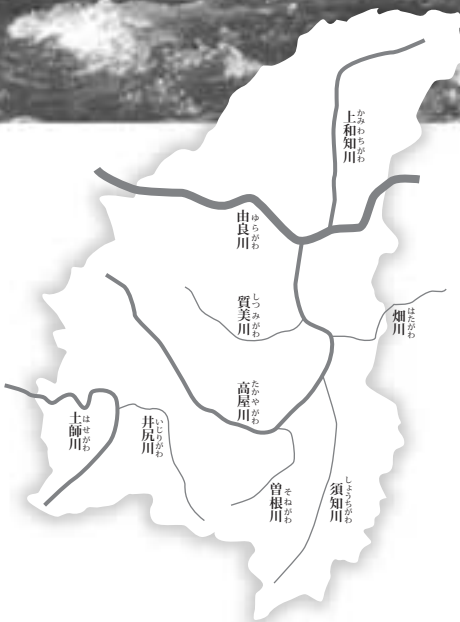
和 知地区の河岸段丘の谷間をぬってゆるやかに流れる由良川。高屋川、上和知川を含んで福知山市へと入り、本町瑞穂地区を流れる土師川の流れを含んで日本海へ注いでいます。
南丹市美山町芦生の杉尾峠にその源を発し、日本海へと注ぐ由良川は、延長一四六キロメートル、流域面積一、八八〇平方キロメートルの一級河川。全国でも有数の大河川です。この由良川流域の上流部にわたしたちの暮らしがあります。

由 良川の支川・高屋川は、瑞穂地区質志に源を発し、曾根川、須知川、畑川、質美川などを含んで和知地区升谷付近で由良川に合流します。

上和知川も支川のひとつ。丹波高原の雄峰・長老ヶ岳(九一七メートル)を源に西河内川、上乙見川などを含み、和知地区篠原付近で由良川に合流します。
また、瑞穂地区を流れる土師川は、井尻川などを含んで福知山市へ流れ、同市内で由良川に合流します。

こ のように由良川の上流域とそこに注ぐ支川の源流に住むわたしたちの暮らしは、その清らかな流れによって支えられています。しかし、身近な存在であるがゆえに、日々の暮らしの中で、川に意識を向けることもあまりありません。

京丹波の川にはホタルが乱舞します。源流には清らかな水が流れています。母なる川は、美食家の舌をうならせるアユを、子どもたちの豊かな心を育てています。古来、この地に生きた先人たちもまた、由良川水系の水を田に引く工夫を重ね、母なる川面に魚影を求めてきたのです。



川と暮らし

丹波高原の分水界や河岸段丘。悠久のときをかけ、川と大地がつくり出した厳しい地形にわたしたちの暮らしはあります。

「分水界」のまち

京丹波町の南側の山地は、中央分水界（分水嶺）の一部を成しています。

南丹市との境にある観音峠もそのひとつ。この峠を境に日本海側に注ぐ由良川水系と太平洋側（大阪湾）に注ぐ淀川水系に分かれています。標高二六〇メートルの小さな峠ですが、この峠を境に由良川・淀川それぞれの流域文化が育まれてきたことを考えると大きな存在です。また、下山上

新田の東方、南丹市日吉町胡麻の新町には標高二〇六メートルの地点があり、ここも分水界。広い谷の中にあつて、このような分水界は「谷中分水界」と呼ばれています。

このように分水界に位置する京丹波町は、由良川水系の源となる水清らかなまちですが、一方で慢性的な水不足を抱えています。水資源に乏しく、これまで生活用水や産業用の水が十分に確保できず、まちの発展は大きな制約を受けてきました。



国道9号、観音トンネル。トンネルの向こう側は淀川水系

段丘に清流めぐる

長いときを経て、川はさまざまな地形をつくり上げてきました。由良川上流に発達している河岸段丘もそのひとつです。

河岸段丘とは、川に沿ってできる階段状の地形で、地殻変動などにより浸食作用が強まり、もとの川床が現在の川床よりも高い台地になったものです。京丹波町では、由良川本流域をはじめ、支川の上和知川や高屋川、瑞穂地区を流れる土師川沿いでもみられます。

河岸段丘は、人びとの生活の舞台になっていますが、川面から高い位置にあるため、水田の水の確保や対岸への往来など段丘上での生活には大変な苦労がありました。



和知地区坂原、中付近の河岸段丘。階段状の地形に民家が並んでいます

治水と利水

水は、わたしたちの暮らしにとって不可欠な資源であると同時に、水害や土砂災害など危険ももたらします。

まだ記憶に新しい平成十六年十月二十日に発生した台風・三号災害。由良川や支川の高屋川、土師川などがはん濫し、流域の家屋や農地などに甚大な被害をもたらしました。こうした水害から人びとの生命、財産、生活を守るための取り組みが「治水」です。一方、川の水をうまく利用することを「利水」といいます。

京丹波町では、治水対策として河川の拡幅や護岸補修などの河川改修が行われています。現在、京都府が瑞穂地区橋爪を進めている高屋川の改修工事そのひとつ。同工事区間は川幅が狭く蛇行が著しいため、梅雨や台風などの出水時にはたびたびはん濫し、川沿いの家屋や農地に浸水被害を与えていることから、河川拡幅により浸



瑞穂地区橋爪の高屋川改修。植生護岸など生態系にもやさしい川づくりがすすんでいます



改修された須知川（高岡）。自然の川本来の姿に近い形に



周辺では国道27号バイパスの整備も進んでいます（下山新田）

【畑川ダム】ダムの形式は重力式コンクリートダム。高さ34.0m、総貯水容量206万m³、洪水被害の軽減や流水の正常な機能の維持と河川環境の保全、水道用水の供給を目的としています（畑川ダム建設現場、下山）

水被害を軽減し、治水安全度を高めていくというものです。

平成九年の河川法の改正で、治水と利水に加えて「環境」というキーワードが入ってきました。洪水などの治水対策を前提に、自然の風景になじんだ川づくり、植物や動物にやさしい環境づくりといった自然の川本来の姿に近い形での河川改修が求められています。

先に述べた高屋川の改修においても、京都府では護岸の強化を図るとともに、植生護岸などを取り入れ、自然環境に配慮した河川整備に努めています。

治水・利水対策としてダムの存在も重要です。丹波地区下山では現在、京都府の「畑川ダム河川総合開発事業」が進んでいます。畑川ダムは、高屋川の支川・畑川に治水と利水の機能を備えた多目的ダムとして建設するもので、京都府では同ダムを治水対策と併せて、地域の生活用水の確保を目的とした「生活関連ダム」として位置づけて

います。

これまで本町は、慢性的な水不足により、渇水期には断水や給水制限を余儀なくされ、また、産業振興などのまちづくりの面でも大きな制約をうけてきましたが、ダムが完成すると丹波地区、瑞穂地区に水道水として新たに、一日あたり五千立方メートルが供給される予定で、生活用水の安定供給はもとより、宅地開発や企業誘致の促進などによるまちの発展が期待できるものです。

7月は河川愛護月間です

国土交通省では、昭和49年から毎年7月を「河川愛護月間」と定め、河川愛護運動を実施しています。この運動は、住民や各種団体と関係行政機関などによる流域全体の良好な河川環境の保全・再生への取り組みを積極的に推進するとともに、身近な自然空間である河川

への皆さんの愛護意識を醸成することを目的としています。今年の運動のスローガンは『川が好き 川にうつった 空も好き』。運動期間中、全国各地で川のクリーン作戦やシンポジウムなど河川愛護のさまざまな活動が行われています。



河原で遊ぶ子どもたち（由良川（和知川）、出野付近）



子来井根（篠原）。対岸の大迫にも総延長3,300メートルの「大迫井根」が開削されました。1802年（享和2年）のことです

河岸段丘に耕地を開いた「子来井根」。上和知川流域の下栗野から下乙見、篠原、市場を経て升谷、大倉まで通水する総延長七二〇メートルにも及ぶ灌漑用水路です。着工は一七九〇年（安永九年）。一帯に約三十町歩の新田が開発されるまで五十九年の歳月を要しました。井根は今なお、上和知川の清流を運び、段丘上の水田を潤しています。

「水とごみ」をテーマに学習しています。子どもたちはさつそく校区内に出かけ、川沿いや道ばたのごみ拾いをしながら、まちには、どれだけのごみが散乱しているのかを調査。ペットボトルや空き缶等、いっぱいになったごみ袋を見て、子ども

「松山環境調査隊」

松山小四年生の総合学習



松山小4年生の総合学習「松山環境調査隊」。「水とごみ」をテーマに自分たちの住むまちの生活環境について学習しています。(松山小、橋爪)



道ばたや川沿いでクリーン作戦(ごみ拾い)を行い、散乱するごみの実態を調査する子どもたち(和田)

川にふれ、川を知る

「自分たちが住むまちの川には、どんな生物がいるのだろうか?」。生活科で川に棲

たちは「なぜ、ごみを道ばたや川沿いに捨てるんだろう?」と疑問をいだきながら、そこから、まちを美しくしていくには、一人ひとりの心がけが必要だということを感じ取ったようです。

また、「水」についても学ぶ環境調査隊の子どもたちは、校区内にある浄水場や下水処理場へ。そこで、水道水ができるまでの過程や、使った水が川へ出て行くまでの過程を理解した子どもたちは今、水の大切さを実感しています。



川に棲む生物を調べる三ノ宮小二年生の児童たち(高屋川、三ノ宮)

む生物について学習している三ノ宮小の二年生たちは、近くを流れる高屋川で、そこに棲息している生き物を調べています。同じように松山小の「松山環境調査隊」の次なる学習の舞台も「川」。実際に川へ入って調査です。

「川は昔、子どもたちの絶好の遊び場でした。川で遊び、自然に触れ、色々なことを学んだのです」と話す担任の中舎良希先生。「川に棲む生き物を実際に川で見ること、ふるさとの川を知り、さらに、このまちの豊かな環境に関心を持ってもらえば」と話します。

川を学ぶ

川は、わたしたちの生活環境を示すバロメータ。そこに棲む生物たちは、わたしたちにさまざまなことを教えてくれます。豊かな環境を次代へ。それは川にふれ、川を知ることから始まります。

和知地区の西河内。同区内を流れる川沿いでは、六月中旬から七月上旬にかけて、無数のホタルが美しい光を明滅させながら飛び交います。それは「乱舞」と呼ぶにふさわしい光景です。

ボタル。ゲンジボタルの幼虫は巻貝の一種であるカワニナの肉を溶かして食べて大きく育ちます。ホタルが棲息するには、カワニナが豊富な場所なくてはなりません。草木や土があり、夜には真っ暗になるなどの条件も必要です。

環境の変化に敏感なホタル。ホタルが棲む環境を守っていくということは、わたしたちが今住んでいる環境を守っていくことでもあるのではないのでしょうか。

ホタルが乱舞する和知地区の西河内

源流の名所

由良川に注ぐ支川の源には、京丹波町を代表する名所があります。

名山に名木あり

七色の木

丹波高原の雄峰「長老ヶ岳」。そのふもと、上和知川の清らかな水が流れる権現谷には「七色の木」と呼ばれる大木があります。一本のカツラの木にスギ、ケヤキ、フジ、カヤ、イロハモミジ、イタヤ、カエデの六種類の木が共生している不思議な木。上和知川源流の名山には、名木があります。



支谷の名瀑

琴滝

高屋川の支川・須知川の支谷にある名瀑「琴滝」。高さ四三メートルの一枚岩を流れる滝は、京都府内でも最大級のスケール。水の流れ落ちる様子が十三弦の琴のように美しいことから名づけられ、また、水の音が琴の調べに似ることから、この名がつけられたともいわれています。



源にある造形美

質志鐘乳洞

高屋川の源である質志には、京都府内唯一となる「質志鐘乳洞」があります。昭和初期に発見され、その後、紡錘虫(フズリナ)やウミユリなど海の動物の化石も見つかっています。

洞内は日本では珍しい縦穴式洞。ほぼ垂直に下りる探索路はスリル満点です。また、鍾乳石がライトアップされ、悠久のときに刻んだ自然の造形美が神秘的な空間をつくり出しています。



地域自治のススメ

「シリーズ・地域自治のススメ」では、「地域自治」による、住民参加と協働のまちづくりについて考えていきます。

【第8回】

住民自治組織による まちづくりアドバイザー講演

京丹波町・協働の課題

今回は、京丹波町住民自治組織によるまちづくり検討委員会(吉田昭会長 委員十五人)の第一回会議(昨年十一月九日開催)で行われた、同委員会のアドバイザー、京都府立大の宗田好史准教授の講演「抜粋」を紹介します。



講演する京都府立大の宗田准教授(役場本館第1会議室)

割。「要請があれば参加したい」も四割。参加するつもりはない(九・五%)という人はほとんどいない。十人中九人が参加するのです。それにもかかわらず参加の場が少ないと思っておられるということなのです。拠点施設としての場を確保するということや会議以外にもボランティア活動などを行う場の確保も重要なのです。

「余力」を生み出す 分担し合う仕組みをつくり、

地域活動への「参加の形、段階」というのは時代とともに変化しています。昔、農村集落では共同作業が盛んだったわけですが、地域の運動会が盛んに行われた時代もあります。でも、だんだん人が集まらないようになりゴミ拾いや除草はしましようとなつています。新たな地域課題、地域安全、自主防災など新しく出てきています。もちろん運動会はしたい。文化教室もやりたい。でも余力がない。

この種のものはいくつか整理しつつ、この地域でどのことに重点を置いてやっていくのかを考え、九割の人が参加したいといっているのですから、その人たちが分担しあう仕組みづくりを考えなくてはならない。何でも区長さんが仕切るのはではなく、地域の人たちに広く参加していただいで、自分たちでルールを決めて分担していくことを考えていかないと問

題はどんどん増えます。将来、どうやって地域の振興を図っていきますかということを考えていく余力を残していかなくてはならない。結構難しい問題です。

意欲のある少数精鋭でやって いかなければならない時代

ここ十五五年ほどの間、町の財政規模はどんどん減ってきている。さらに地方交付税が減ってきている。まちの財政でまわっているのが一割あるかどうかという厳しい状況であり、その九割がどんどん減ってくるわけですから、まさに今、「未曾有の転換期」に差し掛かっています。だから行政だけに任せておける時代は終わった。あるいは、行政はすべてを担えない時代になったということなのです。

同時に地域も変貌したのです。住民組織も変わった。例えば昔は三世代居住が当たり前。だけど「サザエさん」のような家族構成はなくなってきた。農村にあってもなくなくなってきた。だから、これからは地域に自助、共助、互助の仕組みづくりを進めていくことが重要です。

人口が減少する時代に肩を寄せ合って生きる時代。数ある組織を再編して、合理的に、少数精鋭でやっていかなければならない時代。地縁型から志縁型という志をさらに持

今後よりいつそう変化する 新旧住民のバランス

京丹波町総合計画の住民アンケート(対象者二千人、昨年七月実施)の結果のうち、住民自治組織にかかわる部分をみていきます。

まず、住民の居住経歴ですが、「生まれからずっと京丹波町に住んでいる人(旧住民)」「三六・九%と、「他の市町村で生まれて、今京丹波町に住んでいる人(新住民)」「三六・三%」が、ほぼ同じ数。そして、「いったん町外に出て京丹波町に帰ってきた人」が二二%です。昔だったら「ずっと住んでいる人」が圧倒的に多かったが、今後地域の新旧住民のバランスはよりいつそう変化しますから、区長さんは今までのやり方をがらりと変えていかなければならないと必ず経験するのです。

高い動員力を地域の まちづくりへ

「住民自治を推進するうえで、力を入れるべきこと」については、「住民と行政の協働のまちづくり」と答えた人(四八・八%)が最も多かった。地域の重要なことを担

った組織が変わっていく。地域の順番でとりあえず役員をやっているという人の意識を変えてもらって、意欲ある人たちが中心となって、短くても五年はこの地域のために第三の人生をかけるといった気持ちをもった人が出てくるといった体制に変えていくということなのです。

行政だけで地域課題を 解決する時代は終わった

地域の問題を行政が事業を行って解決するだけではなく、住民と力を合わせて解決すべき問題もあり、住民自身が解決しなければならぬ問題がある。その住民だけでやる問題はもちろん住民だけでやるが、その中で住民だけでできないことは行政といつしよにやる。行政だけが地域の問題を解決する時代は終わったわけです。

地域内の問題を集約整理して必要に応じて行政にたぐ役割を地域振興組織が担います。皆さん個々に思いを言うのではなくて、一定整理をしてまとめてもらって、「今年度はこれを」「来年度はこれを」ということを決めていく。解決方法を考えることで行政との対話を重ね信頼関係を深めていく。これからの時代、自らの地域は自らで、情報を住民と共有し、住民自治活動の育成支援を通じて、住民と行政の対話を基礎とした協働のまちづくりを推進するということなのです。

とても良いと言っておられるわけです。また、「参加したことのある活動」では、「集落の活動(五二・三%)」や「美化・清掃活動(五二・〇%)」には大半の人が参加されています。わたしはこれを見て京丹波町では地域活動が活発だと思いました。この高い動員力をもって、福祉、防犯、地域のまちづくりに目を向けてもらって、イベントや清掃活動などが中心であったのを、みんなが知恵を出しながらまちづくりを考えていくことへの切り替えが重要になってきているのです。

新たな人材、それは女性の力。 「参加の場づくり」も必要

次に「住民主体の地域活動を推進するために効果的な取り組みや仕組み」については、「活動への参加の機会、場づくりが必要」が三七・九%、そして、「人材の発掘と育成」が同じく三分の一程度。これは人材が眠っているというのを指しています。これだけ高齢化が進むと女性の力をもっと発揮する必要があります。

厳しい時代だからこそ、地域の 将来を考えなければならぬ

これから(委員の)皆さん方が集まって議論する中で、三つのまちがバラバラではなく、どう一つに調整していくかという二つ目は新しい組織に転換していく中で、古いものを整理するということが必要になります。三つ目に、さらに新しい組織を作ったら何を担ってどういうことをやっていくのか、これだけは続けていきたいというものを考えていくのです。

最後に、京丹波町は谷間に集落があるわけです。中心部は維持できるでしょう。難しいのは、住み続けていたくことが困難になる集落。「限界集落」といいますが、例えば、人口が半分になるとそういうこととどまってくれませんか。全部を今の状況で進むというのは難しい。そういうことが起こり得る地形なのです。京丹波町は、厳しい時代を生き抜いていくために、限られた地域の皆さんの力をどう結集して、どういう組織で行政といつしよになつてふるさとを守っていくかということ、今だからこそぜひ、ご協議いただければと思います。

姉妹都市の留学生 6人がホームステイを育んだ1カ月

友情ときずな



新宮寺(豊田)で茶道を体験する留学生たち。慣れない正座に苦戦しながらもお茶のたて方や飲み方などの作法を学びました。(6月7日)



留学生歓迎会で歓談を楽しむ参加者たち(6月3日、グリーンランドみずほ森林浴レストラン・大朴)

口久之(会長)が、ホークスベリー市と毎年行っている交換留学です。留学生たちは滞在中、京丹波町の豊かな自然環境に触れ、茶道や陶芸体験などを通じて日本文化への理解を深めました。学校生活では仲間との友情を育んだ留学生たち。ホストファミリーとのきずなも深まり、涙で言葉にならない別れでした。

六月二日に来日し、京丹波町でホームステイをしていた姉妹都市オーストラリア・ホークスベリー市の留学生六人が、一カ月間の留学生生活を終え、六月三十日にそれぞれの思い出を胸にオーストラリアへ帰国しました。

この事業は、国際交流事業の一環として、京丹波町国際交流協会(野



ホストファミリーと一緒にゲームをしながら楽しく日本語を勉強する留学生たち。(6月11日、生涯学習センター・豊田)



留学生送別会。お世話になったホストファミリーに花束を手渡す留学生たち(6月29日、町中央公民館・蒲生)

ホストファミリーと留学生にインタビュー

思うように伝えられないもどかさ、「今日のごはんは口に合うだろうか」と心配もあったけれど、言葉の壁を乗り越え、心と心でふれあえたすばらしい1カ月間でした。



田中敏夫さんファミリー(橋爪)

昨年、娘がホークスベリーへ留学させていただいたので、今回はホストファミリーを引き受けました。不安なこともありましたが貴重な体験ができました。わたしもオーストラリアに行きたくなりました。



田中千枝子さんファミリー(蒲生)

サミュエルは礼儀正しく明るい子でした。庭で流しそうめんをしたり、大阪城を見に行ったりして過ごした日々は充実したものでした。言葉が通じていたら、何十倍、何百倍ものしかただろうなと思っています。



野口久之さんファミリー(曾根)

ホストファミリーは今回が3回目の経験でした。何回経験しても料理の面が一番心配。マッシュに合わせた鶏肉中心の料理でした。家族一同楽しい時間を過ごせたことに感謝しています。ありがとうございました。



山下徹さんファミリー(質美)

エロイスと過ごした生活はとても新鮮でした。十数年後、子どもたちが「留学したいなあ」と思ってくれたら、この経験は意義あるものであったのだと思います。この交流がずっと続いていくことを願っています。



田端 長浩さんファミリー(蒲生)

初めての経験を終え、改めて「世界は広いなあ」と感じました。そして、「もっと国際的な視野を広げていかないといけないなあ」とも思いました。最初のうちは不安でいっぱいでしたが、充実した1カ月でした。



長井 義和さんファミリー(井原)

最初の3日間くらいは不安も多かったが、1カ月たった今、別れるのがとてもつらい気持ちでいっぱいです。お互いに辞書を片手にしながらの会話でしたが、とても充実した毎日を過ごすことができました。

ジェシカ・シンプソンさん

すてきなご家族と過ごした1カ月間はとても楽しくて充実していました。この留学で何が楽しかったかと聞かれたら、「すべて」とこたえます。いつか、再び来日できる日を楽しみにしています。また会いましょう。

サミュエル・エッグルトンさん

美しく文化の薫り高い日本で、自然豊かな京丹波町で過ごせて良かったです。この1カ月の経験は一生忘れません。ホストファミリー田中さんのあたたかいもてなしに感謝しています。ありがとうございました。

マッシュ・キングストンさん

友だちになってくれた皆さん、ホストファミリーの野口さん、1カ月間、ありがとうございました。京丹波町の皆さんはとても親切でした。これまでの人生の中で、一番楽しくて、充実した日々でした。

エロイス・ボナーさん

色々な人に助けられて楽しく過ごせました。とくにホストファミリー山下さんには、たいへんお世話になりました。ありがとうございました。またいつか来日できる日を楽しみにしています。

ハンナ・ランドルさん

学校生活では、たくさんの友だちといっしょに色々なことを学習できました。そしてお世話になった田端さんご一家に感謝しています。お母さんの作ってくれた料理、とてもおいしかったです。

ロックラン・ボーリーさん

滞在中、たくさんの方々にお世話になりました。皆さんとても親切な方ばかりでした。ホストファミリーの長井さん、京丹波町での楽しい日々をありがとうございました。感謝しています。この交流が長く続いていくことを願っています。

簡易水道整備工事にかかる不祥事のお詫び

去る五月二十九日、本町幹部職員が和知簡易水道整備工事にかかわったの収賄容疑で逮捕、起訴されたことに引き続き、六月二十一日には要職にある副町長が逮捕されたことは、町民の皆様への信頼を大きく裏切るものであり痛恨の極みであります。

合併から一年八カ月が経過し、ようやく行政運営にも落ち着きをもって対処できるようになった矢先に、このような事件が二度も続けて起きたことにつきまして、改めて町民の皆様からのお詫びを申し上げます。誠に申し訳ございません。

失われた町政への信頼を取り戻す道は、さらに厳しいものと覚悟し、町民の皆様の不安の解消と一日も早い信頼回復に向け、職員と共に一丸となって全力で取り組む所存であります。

このたびの二度にわたる不祥事に関し、私の任命権者としての管理監督責任はもちろんのこと、上田副町長もその責任を痛感しており、自らを律し、その責任を明確にするべく給与の減額条例を先の臨時議会に提案いたしました。時期尚早だと否決となりましたので、今後時期をみて、私の責任は明らかにしたいと考えております。何とぞご理解賜りますようお願い申し上げます。

二度とこのような不祥事が起きないよう速やかな対策を講じるため、内部調査や職員研修を実施するとともに、入札制度の改正では、郵便入札の導入、工事予定価格の事前公

表、また、応札業者、入札価格、最低制限価格等入札結果の公表などの見直しを行い、「京丹波町建設工事条件付一般競争入札実施要綱」を六月十五日告示、施行しました。

さらに一過性ではなく、常に公務員倫理を向上させる継続的な取り組みを行うことは言うまでもなく、徹底した原因究明を行い、事件の背景を明らかにするために、有識者で構成する「入札事件に関する外部調査委員会設置要綱」を六月二十九日告示、施行するとともに、本町における収賄事件に関し、組織内部の再点検を行い、再発防止、職務執行の公平性の確保と公務に対する社会的信用の回復を図るため、副町長を委員長とする「京丹波町綱紀粛正倫理委員会」を設置しました。

今日まで努力し、築き上げてきた町民の皆様への行政に対する信頼が著しく失われたことを厳しく受けとめ、また、これらの不祥事に動揺し、行政の停滞や行政サービスが低下することがないよう、信頼回復に向けて誠意、職務を執行いたしますことを決意し、重ねて町民の皆様をはじめ関係各位に多大なご迷惑をおかけしましたことを幾重にもお詫び申し上げます。

大変厚かましいお願いではあります。後とも変わらぬご協力をお願いする次第でございます。以上、誠に簡単で意を尽くしませんが、今回の不祥事にかかるお詫びの言葉とさせていただきます。

「事件の経過など」

五月二十九日、和知簡易水道整備工事に絡み、業者に有利な取り計らいをした見返りに現金を受け取った収賄容疑で元和知支所長が逮捕（六月十九日に起訴）されました。

事件を受け本町は、急ぎよ開かれた町議会全員協議会で陳謝するとともに、事件の経緯を説明。以後、内部調査や職員研修、入札制度の見直しなどを行いました。職員一丸となつて、再発防止に向け歩み始めていた矢先の六月二十一日には、同事業の別件工事をめぐり元副町長が、旧三町合併前の和知町長時代に同じ業者からわいろを受け取っていた疑いで逮捕されました。

町は、先の元幹部職員が引き起こした事件について、贈賄業者に対しては、六月二十日から二年間の指名停止措置を行い、収賄の容疑で逮捕、起訴された元和知支所長を同月二十一日付けで懲戒免職、贈賄業者から飲食接待を受けていた前水道課職員二人を停職六カ月と同四カ月の懲戒処分、堀元副町長につ

勇壮な響きに酔いしれる DONと来い丹波八坂公演

丹波八坂太鼓保存会(村上薫会長)

の定期公演「第九回DONと来い丹波八坂公演」が六月二十四日、旧須知小の講堂で開かれ、町内や京都市内などから約二百五十人が来場。勇壮な響きを楽しみました。公演では、同保存会が伝統曲「八坂」や南北の風が交わる丹波高原をイメージした「北風南風」など九曲を鮮やかな撥さばきで披露。和知地区の伝統芸能「小畑万歳」の舞台や下山小太鼓クラブの演奏もあり、花を添えました。



▲華麗な撥さばきをみせる保存会のメンバーたち(旧須知小講堂、須知)

演劇「夕鶴」に児童も出演 丹波ひかり子ども会交流協

六月十六日、丹波ひかり小で演劇「夕鶴」の鑑賞会が行われ、児童や保護者などが参加。親子で楽しいひとときを過ごしました。

鶴の恩返しでおなじみの「夕鶴」を演じたのは、亀岡高演劇部OBなど十人で作る演劇集団「土」だ。この日は、劇団員と共に同小の児童六人が出演し、堂々と演技を披露していた。この行事は、同小の前年度PTA本部役員らでつくる「丹波ひかり子



▲村の子どもたち役を演じる児童たち(丹波ひかり小体育館、曾根)

地元運営で新しい交流始まる 丹波黒豆学校が開校

今年度の「丹波黒豆学校」が六月十六日に開校。京都市などから二十四組約五十人が参加し、丹波食彩の工房付近の畑で丹波黒大豆の種まきを行いました。



▲地元農家(右)に教わりながら種を植える参加者たち(丹波食彩の工房付近、高岡)

丹波黒豆学校は、地域の名産「丹波黒」のPRや都市農村交流などを目的に五年前から町と丹波食彩の工房が行ってきたもの。今年四月から丹波食彩の工房の管理運営が指定管理者に移行したのに伴い、同事業は今年度から地元の下村農事組合が行うことになりました。

この日は、地元農家・山田元さん(高岡)が講師を務め、黒大豆の種まきのコツや注意点などの説明を行った後、参加者たちはさつき畑に入り、地元農家の人びとに教わりながら「丹波黒」の種を一つ一つついでいねいに植えました。参加者たちは今後、来年二月まで栽培、収穫、黒大豆のみそ作りなどを体験します。

地球にやさしい 職場づくりへ 地球温暖化対策実行計画を策定

京丹波町はこのほど、「京丹波町地球温暖化対策実行計画」を策定しました。

同計画の策定は、京都議定書の発効(平成十七年二月)を受け、わが国が定めた「地球温暖化対策推進法」の全面施行に伴い、地方自治体にも「温室効果ガスの排出抑制等」のための措置に関する計画(実行計画)の策定が義務付けられたことによるもの。

計画の期間は平成十九年度(二十三年度)までの五年間。平成十七年度を基準年度として、目標年である平成二十三年には温室効果ガス排出量を基準年度に比べて四・五%削減をめざします。

今後町では目標達成に向けて、昼休みの一斉消灯やクールビズ(夏の軽装勤務)によるエアコンの適温使用など電気使用量の削減、公用車のアイドリング、ストップ、廃棄物の減量化、節水などに取り組んでいきます。



京丹波町長 松原 茂樹

わたしたちの町	
人口	17,545 (-32)
男	8,323 (-14)
女	9,222 (-18)
世帯数	6,501 (±0)
7月1日現在 / ()は前月比	

9年ぶりにつかんだ全国への切符

全国高校ホッケー選手権大会(インターハイ)の近畿地区予選会が六月十六日、グリーンランドみずほホッケー場で行われ、地元須知高女子ホッケー部(野々村守監督)が、九年ぶり八度目のインターハイ出場を決めた。今年のインターハイは、七月二十九日―八月二日まで佐賀県伊万里市で開催される。



鮮やかなドリブルで敵陣へ攻め込む須知(青色のユニフォーム)
(グリーンランドみずほホッケー場、大朴)



須知高ホッケー部は先に行われた京都府予選の決勝で強豪の立命館高を破り、京都府代表として近畿地区予選会に出場。近畿の各府県の代表六チームを二グループに分けた総当たり戦で行われた。須知は一試合目、奈良県天理高と対戦し、古豪相



手に危なげない試合運びで、六〇〇の完勝。勢いにのった須知は、二試合目の兵庫県篠山鳳鳴高戦を十二―〇と圧勝し、全国大会への切符を手にした。

長いトンネル抜けた!

平成九年に地元で開催された高校総体ホッケー競技(インターハイ、京都総体)で、初の全国制覇を成し遂げ、全国にその名をとどろかせた同高女子ホッケー部。

その後、平成十五年三月に地元で開催された全国高校選抜ホッケー大会で準優勝したものの、高校スポーツの祭典・インターハイに限っては、平成十年に出場したのを最後に、九年間遠ざかっていた。

この間には、部員不足でチーム存亡の危機にも直面してきただけに、同高女子ホッケー部がようやく長いトンネルを抜け、インターハイ出場の切符をつかんだことで、監督や選手、保護者、関係者らの喜びもひとしおだ。

試合後、野々村守監督は「十年前、日本一になったこの場所(グリーンランドみずほホッケー場)で、インターハイ出場を決めることができた。いい再出発になったと思う」としたうえで、「今年のチームは選手一人ひとりの個人技が卓越しており、チームのまとまりもある。(インターハイでは)一戦一戦大事に戦い、頂点をめざしたい」とコメント。須知高女子ホッケー部の熱い夏がはじまった。シンボルカラーである青のユニフォームが再び全国の頂点をめざす。



チームを引っ張るキャプテンの西田 奈央さん(3年)

編集後記

7月は河川愛護月間。これにちなんで今月は「川」を特集した。取材を通じて、川はわたしたちの生活環境を映す鏡であり、河川環境を守るということは、わたしたちの生活環境を守ることにはほかならないと感じた。河川愛護の第一歩は川に親しみ、川を知ることから。この夏は、ふるさとの川に親しんでみたい。(Y)

【おわびと訂正】先月の広報京丹波(No.20)の2ページ、「今月の表紙」の本文中、「岡花金五郎さん(質美)」は(質志)の誤りでした。おわびをして訂正します。